

週報 Weekly Report 2025-2026

事務所 三重県伊賀市西明寺 2756-104 ヒルホテルサンピア伊賀内
 TEL 0595-24-4650 FAX 0595-24-4656
 例会 毎週木曜日 12:30 第3週例会 18:00 点鐘
 ヒルホテルサンピア伊賀 TEL 0595-24-7000



URL : <http://www.ict.ne.jp/~u-eastrc/>
 e-mail : u-eastrc@ict.ne.jp

よいことの
 ために
 手を取りあおう

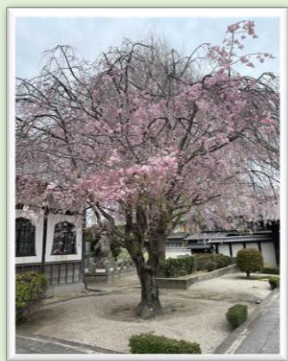
【本日の例会 第2107回 2026年4月16日(木)】
 開会点鐘) 18:00
 ロータリーソング) 四つのテスト
 歌唱指導)
 ゲストのご紹介・ビジターのご紹介
 誕生月のお祝い
 出席報告・会長の時間・幹事報告
 ニコニコボックスの報告
 委員会報告・同好会報告
 職業宣言
 閉会点鐘) 19:00
 本日の行事) 夜間例会

【前回の例会 第2106回 2026年4月9日(木)】
 開会点鐘) 12:30
 ロータリーソング) 我らの生業
 出席報告・会長の時間・幹事報告
 ニコニコボックスの報告
 委員会報告・同好会報告
 閉会点鐘) 13:30
 本日の行事) 移動観桜例会
 山溪寺



【会長の時間：木津会長】

今日は恒例の観桜例会ということで、山溪寺さんにお世話になっております。まずは長谷川和尚、そして奥様には心から感謝を申し上げたいと思います。お庭の桜も満開であります。一番心配であったのが散って寂しい桜だったらどうしようということであつたんですけども、木津年度は満開です。そして皆さんと一緒にこうしてお弁当を食べるといふは、仲間意識を高めるといふことでもあり、毎年楽しみにしております。また屋間大変暖かくなりまして、お庭の花もそれぞれ満開かなと思っております。私も趣味で花を植えてます。ちょっとした残地とか空地とかありましたらボランティアで花を植えており、近所の方にもそれに賛同いただいております。その中で冬は当然枯れるんですけども、暖かくなるとやっぱり芽が出ます。芽が出たり、違うところに種が飛んで、新しいところに花が咲くということで、本当にこの植物の生命力には感動しております。また一方で、これから暖かくなりますと草が生えてきますね。これからは草との戦いのということで、毎週毎週草刈機の出番ということになります。皆さんもこれから暖かくなりますので、どうぞ元気にお仕事そしてそれぞれのお立場でご活躍をしていただくことをご祈念申し上げます、会長の時間とさせていただきます。本日の花見楽しみましょう!!!



【出席報告：中西出席委員長】

正会員数37名
 欠席免除者6名
 欠席免除者以外の欠席者が2名
 出席率93.55%



【食事の時間】

木津会長がおっしゃられたように、美味しいお弁当をいただきながら、仲間意識を高めることができました。
 ごちそう様でした。



【幹事報告：宮岡幹事】

長谷川さん、奥様、今日はお世話になります。よろしく願いいたします。本日の幹事の報告はございませんけれども、本日のお弁当に添えさせていただいておりますお団子ですが、滝山さんからいただいております。ありがとうございました。それでは引き続きお花見 鑑賞をよろしくお願い致します。





木津会長:恒例の観桜例会、山溪寺様、お世話になります。

宮岡幹事:長谷川さん、奥様、本日はお世話になります。親睦委員の皆様、準備ありがとうございます。

中井会員:長谷川さん、お世話になります。

宮田会員、平井会員、岡田会員:長谷川君、お世話になります。ありがとう!

鈴木会員、中西会員、福永会員:長谷川さん、親睦委員の皆様!!設営ありがとうございました。

三谷会員、中尾会員、中里会員:長谷川さん、本日はお世話になります。

伊藤会員:長谷川さん、お世話になります。来週の欠席のお詫び。

山森会員、樋口会員:長谷川さん、毎年ありがとうございます。今年もよろしく願います。

栗本会員、出後会員:長谷川さん並びに奥様、本日はお世話になります。

中村会員:長谷川さん、毎年ありがとうございます。

野口会員:例会欠席のお詫び。

山本会員:先週、例会欠席のお詫び。本日、長谷川様、よろしく願います。

【本日の行事】

「観桜移動例会卓話 ~突撃!お寺訪問~」

広報委員会の委員として、今年の1~2月に10数年ぶりに週報の編集を担当した。誌面には「突撃!会社訪問」というコラムを設け、会員の方々の会社を訪問し、代表としてのご苦勞や成功談を伺いながら、ロータリアンとしての職業奉仕への思いを語っていただく企画である。

今回はその逆に、「突撃!お寺訪問」を受けたとしたら、どのように応えるかを想定してお話ししてみたい。

「寺離れ」が叫ばれる昨今、寺の住職としては頭を悩ます日々である。例会で読み上げる「職業奉仕 四つの反省」の中には、「顧客に対して最上の品質、最高のサービスを提供しているか」「常に正直と親切を旨としているか」とある。この言葉を念頭に置き、檀家や信者の方々とコミュニケーションを大切に、こちらから話すよりも聞き手に回ることを心がけている。

また、折に触れて、専門用語をできるだけ使わずに説明し、その意味や意義を丁寧に伝えるよう努めている。寺には法要に関する馴染みのない言葉が多い。例えば「一周忌」は、亡くなってから一年目に行う法要であるが、「どんな意味があり、なぜ行うのか」と問われることがある。そのため、一周忌を迎える施主には必ず事前に説明するようにしている。

仏教の世界では宗派を問わず、一周忌は「小祥忌(しょうしょう忌)」と呼ばれる。「祥」とは、めでたい、幸せといった意味を持つが、新仏を出した家では一年間、「小祥」すなわち、めでたいことや華やかなことを控え、静かな心持ちで過ごすことを指す。そして一周忌の供養をもって、その期間に一区切りをつけ、日常へと戻る、いわばリセットの意味を持つのである。

また、「百ヶ日」は仏教では「卒哭忌(そっこく忌)」と呼ばれる。「哭」は、立ち直れないほどの深い悲しみを意味し、「卒」はそれを終えるという意味である。すなわち、深い悲しみに一区切りをつける節目を示している。ただし、実際に百日ほどで悲しみを乗り越えることは容易ではないが、そうした区切りを設けることに意味があるとされている。

このように、法要の正式な呼び名にはそれぞれ意味があり、三回忌、七回忌、十三回忌といったすべての法要にも同様の意義がある。さらに言えば、これらの法要の本質は亡くなった方のためというよりも、残された人々のためにある。すなわち、追善供養とは、現世に生きる私たちの心を整える営みでもあると言えるだろう。

こうした話がすべての方に理解され、意義を感じていただけるかは分からない。しかし、黙して語らず、以心伝心が通じる時代ではない。些細なことであっても、その意味や意義を丁寧に伝えていくことこそが、和尚としての職業奉仕の一つであると、日々感じている。

桜には全く触れませんでした。観桜例会の卓話とさせていただきます。ありがとうございました。



山溪寺 長谷川真嗣住職

【御本尊へのご焼香】



【編集者のつぶやき】

今週も次男が編集を担当させていただきました。

この4月から社会人になり、学生の時に比べて忙しい気がします。そんな中、父に編集をやってもらいたいと言われ、父は横で「ええ感じやな」と最終確認だけをしていることが多く、なんとも効率の良い分担だと感心しております。来週は何か良い話題を持ってきます。